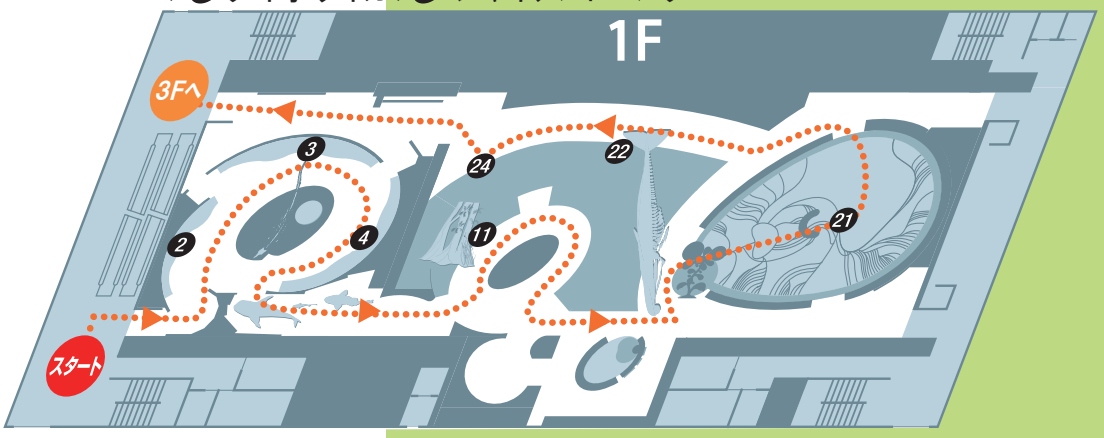
地球館 90 分ハイライトコース

1

まずは地球史ナビゲーターで地球館の予習。アニメーション映像のなかには地球館に展示されているものがたくさんあります。
絞め殺しの木は許可を得て現地で採集した実物で、かつて宿主の木があった場所が枯れて空洞になっています。
系統広場では、進化によって地球上にさまざまな生物がいることを実感できます。
人気者のダイオウイカはすぐそばに展示されているスルメイカと大きさを比べてみてください。
ジャイアントパンダは手の骨格標本にもご注目。

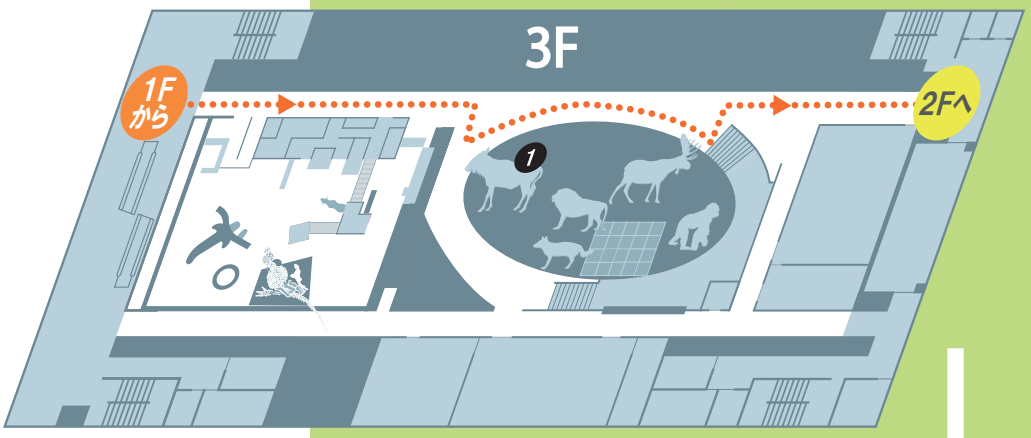
❷❸❹ 地球史ナビゲーター / ⓫ 締め殺しの木 / ㉑ 系統広場 / ㉒ ダイオウイカ / ㉔ ジャイアントパンダ



2

3Fの奥にはたくさんの動物剥製があります。
同じウシ科、シカ科でも体の大きさや角の形は千差万別。
また、絶滅してしまったニホンオオカミの貴重な剥製もこのフロアにありますので、お時間に余裕がありましたら、併せてご覧ください。

❶ 大地を駆ける生命（ヨシモトコレクションの剥製群）

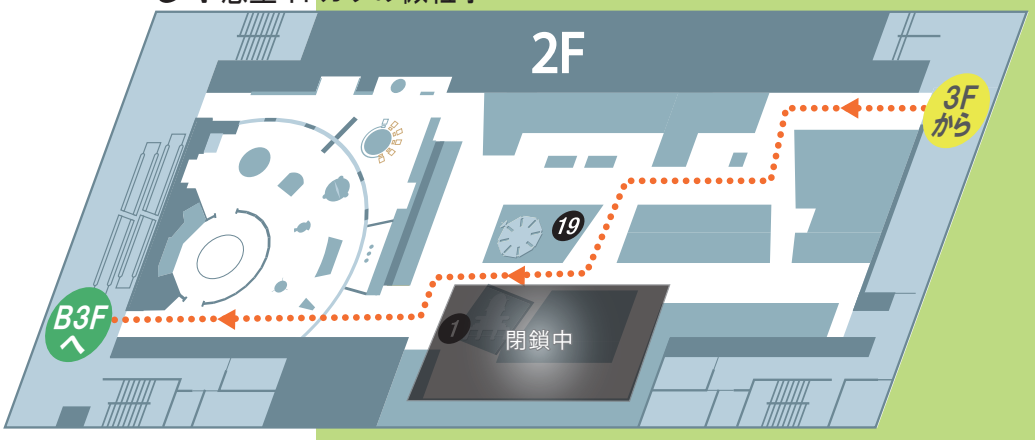


3

2F では日本の科学技術のさまざまな資料をご覧ください。

「はやぶさ」の調査で一躍有名になった小惑星イトカワで採取された微粒子を顕微鏡で観察したら、体験コーナーで地球を探ってみましょう。

⓳ 小惑星イトカワの微粒子



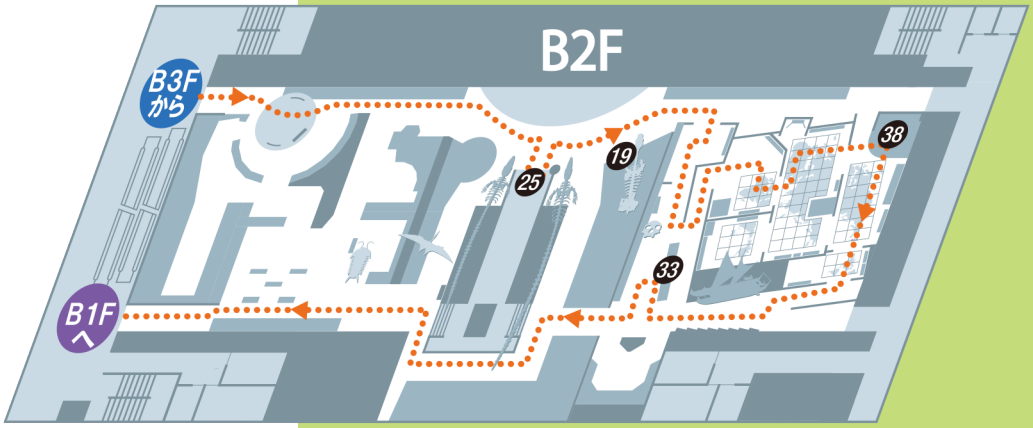
次のページへ

前のページから

4

一際目立つバシロサウルス（哺乳類）とティロサウルス（爬虫類）で収斂（しゅうれん）進化について考えてみよう。
パラケラテリウムは史上最大の陸生哺乳類とされています。その迫力の大きさを感じながら人類学コーナーへ。
マンモスの骨で作られた家からは資材の乏しい地域ならではの工夫が見て取れます。
猿人・原人・旧人の復元模型と現代人の体形を比べてみるとどこが違うでしょうか。

㉕バシロサウルス・ティロサウルス /⑲パラケラテリウム /㊳マンモスの骨を利用した住居 /㉝猿人・原人・旧人の復元



5

最後にB1Fの恐竜をぐるっと見学。
ティラノサウルスは最近の学説を反映してしゃがんだ待ち伏せポーズです。
トリケラトプスの産状化石は世界でも有数の状態の良さで、この標本を研究することで手の甲を外側に向けて立っていたことがわかりました。

これにて地球館ハイライトコースは終了です。
気になる展示があればぜひ、もう一度ご来館下さい。

❶ティラノサウルス /❷トリケラトプス